



こんな道徳どうでしょう?!



子どもとともに考えたい特別の教科「道徳」の授業
目の前の子どもの実態から育てたい子どもの道徳性



4月から中学校でも教科書を使用した「特別の教科 道徳」が始まっています。「道徳の授業」をして、いかがですか。

昨年、大阪教育文化センターの教育講座（6月）で、教科書資料の中から小学校「かぼちゃのつる」「おかあさんのせいきゅうしょ」「手品師」を、スピンオフ講座（11月）で「星野くんの二墨打」（小学校）「二通の手紙」（中学校）を扱い、学習指導要領から「こんな実践もできる!」ということを見てきました。

「教科書」なら楽に授業が展開できる、でもやっぱり「教科書」の内容とクラスの子どもの実態とかけ離れているようで、しっくり来ない…。本講座は、昨年よりさらに内容を深めて、子どもの「道徳性」をどう育てていくかを検討していきます。

ぜひ、ごいっしょに考えてみませんか。

【大阪教文センター教育課程研究会】



道徳的価値を内心に同化させる危険性

すでに小中学校でスタートしている「特別の教科 道徳」では、学習指導要領に定められた個々の徳目へと子どもたちを誘導するようにつくられた教科書が使われている。そういう教科書をそのまま使ってしまうと、文科省が言う「考え、議論する道徳」が180度変質してしまう恐れがある。一人ひとりの児童生徒が自分自身の答えをつかみ取るのではなく「考え、議論する授業」が外から与えられた答えに自分を同化させていくプロセスになってしまうからである。

これはとても怖いことだ。子どもたち自身に議論させてはいるが、それは結局子どもたち自身が納得した上で、あらかじめ設定された一つの価値観に到達するよう誘導されてしまうのだ。（前川喜平・元文部科学事務次官）

「同調圧力」望月衣智子 前川喜平 マーティン・ファクラー（角川新書 2019年6月）より

参加費 500円
(サポーターは無料)

9月14日(土) 13時半～16時半
たかつガーデン・3F カトレアA
(近鉄大阪上本町駅・大阪メトロ谷町9丁目)



たかつガーデン

大阪教育文化センター
TEL 06-6768-5773
MAIL: kyoubun@minos.ocn.ne.jp